

新興国レポート

インド利下げ見送り

2会合連続利下げ見送り。当面の金融政策を中立姿勢に変更

- ▶ インド準備銀行は2月8日、昨年12月に続き2会合連続で政策金利の据置きを決定。また、2015年1月以降の金融緩和姿勢を当面中立に変更。上記決定を受け、当日のインド市場で10年国債金利が急上昇、インドルピーが対米ドルで買われる展開に。
- ▶ 追加利下げ期待の後退は今後、市場の波乱要因に。2月初旬から3月初旬の5州（ウッタル・プラデーシュ州等）の州議会選挙結果に注目が集まる可能性も。

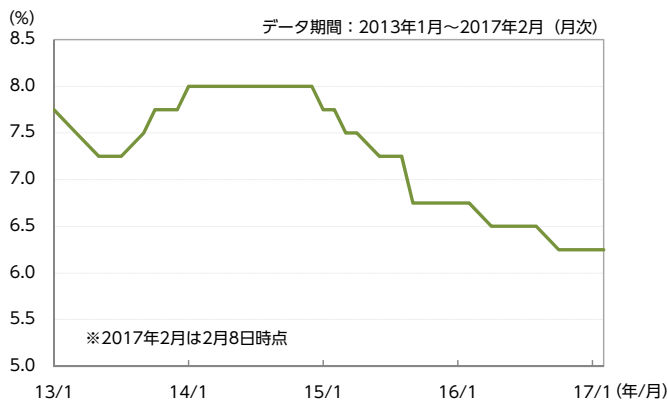
～ インド準備銀行（RBI）金融政策決定概要等 ～

- ◆ RBIは2月7～8日の定例会議で、政策金利を6.25%で据え置くことを決定しました。また、2015年1月以降の金融緩和姿勢を当面中立に変更しました。RBIは前ラジャン総裁のもと、2015年1月から政策金利の引き下げを開始。同金利は、2014年12月の8.0%から6.25%まで1.75%引き下げられました。
- ◆ 政策金利据置きや金融政策変更の理由についてRBIは、インドルピー安による輸入物価上昇や原油高（インドは原油の純輸入国）でインフレが再燃する懸念があると判断したことを理由として挙げています。現パテル総裁は会見で、今後消費者物価（CPI）（前年同月比）をRBIが目標とする4%内に抑制することに注力する旨の発言を行っています。

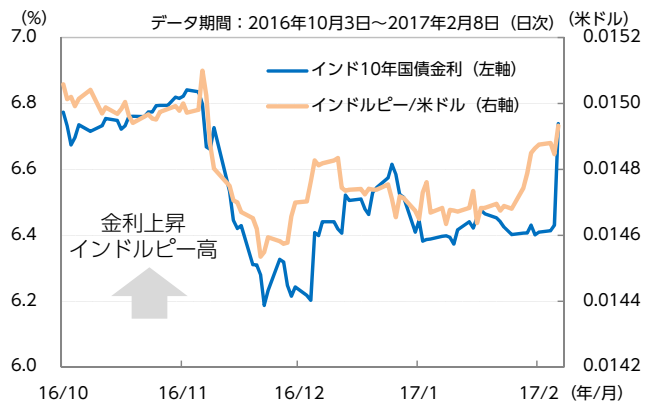
～ 市場の反応と今後の注目材料等 ～

- ◆ 市場では、①昨年11月に突如実施された高額2紙幣廃止による影響軽減の必要性、②足元の消費者物価の落ち着き（昨年12月は前年同月比で3.4%と、2012年1月以降では2014年11月の3.3%に次ぐ低い水準）等から、利下げが決定されるとの見方が多かったようです。RBIの決定は、2月8日の金利及び為替市場に影響を与えているようです。一方、株式市場は比較的落ち着いた動きとなっています。
- ◆ 追加利下げ期待が今後大きく後退する可能性があり、市場の波乱要因となりそうです。2月初旬から3月初旬にかけて行われる5州の州議会選挙で、モディ首相率いるインド人民党（BJP）がどの程度議席を獲得出来るかにも注目が集まるものと思われる。

【図表1】インド政策金利推移



【図表2】インド金利及び通貨レート推移



(出所) 図表1～2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント